

秋田県生涯学習センター

2026事業計画・2025事業実績

発行 令和8年4月

も く じ

【 主な資料について 】

令和8年度 秋田県生涯学習センターの事業 ～3機能のネットワーク化による地域及び現代的課題解決へのアプローチ～	… 1
---	-----

1 シンクタンク機能

「障害者の生涯学習」に関する調査研究の推進

(1) 調査研究の推進・拡充	… 2～8
□ 「障害者の生涯学習」に関する調査研究（8年次）の推進 （「障害者の生涯学習」に関するこれまでの主な取組）	
□ 社会教育状況調査の実施	
□ 「家庭教育に関する調査」の分析とまとめ	
(2) 多様な主体との連携・協働	… 8～9
(3) 運営委員会の開催	… 10

2 研修・人材育成

「持続可能な地域づくり」を目指す研修・支援の推進

(1) 研修事業の推進	… 11～14
(2) 市町村等の課題解決に向けた取組への支援	… 14～15
(3) 障害者の生涯学習に取り組む生涯学習団体への支援	… 15～16

3 学習活動・情報発信

県民の生涯学習機会と学習情報発信の充実

(1) 「障害者の生涯学習」のための活動スペースの活用	… 17
(2) 県民の生涯学習機会の充実	… 18～19
(3) 学習活動等の情報発信の充実	… 20
(4) 展示スペースの活用促進	… 21
(5) 学習相談の充実	… 21
(6) 県庁出前講座の実施	… 21
(7) 視聴覚教育の充実	… 22
(8) 施設利用の促進	… 22
令和7年度センター利用者数	… 23

【 主な資料について 】

※ 秋田県生涯学習センターWebサイトを参照

1 シンクタンク機能

- 令和7年度 障害者の生涯学習に関する実践紹介リーフレット
「生涯のあるなしにかかわらず
みんなで学べる場をつくってみたら 笑顔につながり広まった」
- 令和6年度 障害者の生涯学習に関する実践紹介リーフレット
「生涯のあるなしにかかわらず
みんなが集い、笑顔で学べる場 つくってみた」
- 令和5年度 障害者の生涯学習に関する実践紹介リーフレット
「障害のあるなしにかかわらず
笑顔で学べる場 つくってみた」
- 令和4年度 障害者の生涯学習に関する意識啓発リーフレット
「障害のあるなしにかかわらず 一緒に学べる場 つくってみた」
- 令和3年度 障害者の生涯学習に理解促進リーフレット
「障害者の生涯学習～共生社会の実現に向けて～」
- 2020 Research Report 「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査

- 令和7年度 「家庭教育に関する調査」報告書【詳細版】
- 令和6年度 「家庭教育に関する調査」グラフで見る秋田の家庭教育
- 令和元年度 「家庭教育に関する調査」グラフで見る秋田の家庭教育

2 研修・人材育成

- 令和7年度 生涯学習・社会教育関係者研修実施レポート及び研究大会報告
- 令和7年度 家庭教育支援指導者等研修実施レポート

3 学習活動・情報発信

- 令和7年度 あきたスマートカレッジ講座内容報告
- 生涯学習センターだより（通巻43・44・45号）

令和8年度

秋田県生涯学習センターの事業

～3機能のネットワーク化による地域及び現代的課題解決へのアプローチ～

本県生涯学習及び社会教育推進の中核機関として、県民の生涯にわたる学習活動を支援するとともに、関係職員の資質向上を図り、市町村及び関係機関・団体との連携・協働による学びの場を創り出し、持続可能な地域づくりの実現に寄与する。

1 シンクタンク機能

「障害者の生涯学習」に関する調査研究の推進

- ① 調査研究の推進・拡充
 - 「障害者の生涯学習」に関する調査研究（8年次）の推進
 - ・ 調査研究委員会の開催
 - ・ 障害の有無にかかわらず学ぶことができる場づくりの充実
 - ★ モルック交流大会
 - ★ アールクベ・イウベ・キタブェ～デフバージョン～
 - ・ 各地域における様々な学習機会の創出
 - ★ 障害者支援施設等との連携・協働
 - ★ 市町村への伴走型支援
 - 社会教育状況調査の実施
- ② 多様な主体との連携・協働
 - 民間企業等との連携・協働
 - 大学との連携・協働
 - 関係機関との連携・協働
- ③ 運営委員会の開催

2 研修・人材育成

「持続可能な地域づくり」を目指す研修・支援の推進

- ① 研修事業の推進
 - 地域課題や現代的課題（障害者の生涯学習・防災等）の解決に迫る関係職員研修の充実
 - ・ 新任職員等基礎研修
 - ・ 市町村・公民館職員専門研修
 - ・ 家庭教育支援指導者等研修
 - 県生涯学習・社会教育研究大会
 - ② 市町村等の課題解決に向けた取組への支援
 - 「学校・地域連携総合推進事業」にかかわるオーダーメイド型社会教育主事派遣（8年次）の充実
 - 「地域の学びを支えるプラットフォーム構築事業」にかかわる伴走型支援の充実
 - ☆ 長期型（5年次）
 - ☆ 短期型（1年次）
- ③ 障害者の生涯学習に取り組む生涯学習団体への支援

3 学習活動・情報発信

県民の生涯学習機会と学習情報発信の充実

- ① 「障害者の生涯学習」のための活動スペース【ツドゥベース】の活用
 - 障害者スペースベース
 - ・ ボツチヤ、パドミントンシ、卓球パレー、モルック等
 - 地下スペース
 - ・ アート活動、ワークショッヅ等
- ② 県民の生涯学習機会の充実
 - 地域課題や現代的課題に迫るあまたスマートカレッジの充実
- ③ 学習活動等の情報発信の充実
 - 生涯学習支援システム及び生涯学習情報誌紙による情報発信
- ④ 展示スペースの活用促進
- ⑤ 学習相談の充実
 - 「ブルーの窓口」での相談業務
- ⑥ 県庁出前講座の実施
- ⑦ 視聴覚教育の充実
- ⑧ 施設利用の促進

1 シンクタンク機能

「障害者の生涯学習」に関する調査研究の推進

(1) 調査研究の推進・拡充

シンクタンク機能の中核となる調査研究は、本県生涯学習・社会教育推進の方向性を定め、現代的課題の解決につなげるために実践研究するものである。

□ 「障害者の生涯学習」に関する調査研究（8年次）の推進

市町村や特別支援学校、民間企業、障害者支援施設等と連携・協働し、障害の有無にかかわらず学ぶことができる場づくりの充実を図り、モデルとなる実践を行う。その際には、障害者の生涯学習のための活動スペース「ツドウベース」等の利用を通してつながった団体・個人のニーズに応じた学習内容について検討し、学びの場の拡充を図る。

テーマ 「障害者の生涯学習」の推進と連携・協働による学びの場づくり

【具体的な取組内容】

- 調査研究委員会の開催（2回）
- 障害の有無にかかわらず学ぶことができる場づくりの充実
 - ・令和7年度に試行実施した取組（モルック体験交流会、アルクベ・イウベ・キクベ～デフバージョン～）の拡充
- 各地域における様々な学習機会の創出
 - ・特別支援学校、民間企業、障害者支援施設等との連携・協働による実践
 - ・障害者の生涯学習における市町村への伴走型支援（長期型、短期型）の実施
 - ※ 関連する研修・講座については、令和8年度生涯学習・社会教育関係者研修年間計画及びあきたスマートカレッジ学習案内に掲載

（「障害者の生涯学習」に関するこれまでの主な取組）

☑ 1年次（令和元年度）

特別支援学校高等部及び卒業後3年以内の生徒の保護者を対象に、生涯学習に関する環境整備やニーズ等に関する調査を実施し、県内の状況把握に努めた。令和2年3月には、その結果を「概要版」として発行（2,300部）するとともに、現状把握のための関係団体ヒアリングを実施した。

☑ 2年次（令和2年度）

前年度調査のより詳しい分析及び聞き取り調査（特別支援学校及び就業・生活支援センター）を実施するとともに、調査結果から見えてきた課題に対応するために新たな視点（防災、障害者スポーツ）による講座及び職員研修を実施した。さらには、民間企業（10社）からなる協賛団体「ブルーS3」（ブルースリー）との協働により、「ブルーS3杯ポッチャ交流大会（R2.12）」を開催した。

☑ 3年次（令和3年度）

令和2年度の研究及び講座や研修等の実践を生かし、障害者の生涯学習についての理解促進を目的としたリーフレット「障害者の生涯学習～共生社会の実現に向けて～」を作成・発行（2,000部）した。また、3回の調査研究委員会を開催するとともに、昨年度の同会議で話題になった障害のある方、ない方が一緒に参加する「熟議」を2回（1回はオンライン開催）実施。さらに、協賛団体「あきたWith」（企業数が21社に増えて「ブルーS3」から名称変更）との共催により、「あきたWith杯ボッチャ交流大会（R3.12）」を開催した。

☑ 4年次（令和4年度）

『「障害者の生涯学習」の推進とつながりづくり～連携・協働や学びの場を創る実践に向けた仕組みの考案～』をテーマに掲げ、令和3年度作成のリーフレットの活用状況や内容の改訂等について話し合うための調査研究委員会を2回開催するとともに、新たな取組を展開した。

一つは、仙北市との協働（「オーダーメイド型社会教育主事派遣」を活用）により、障害の有無に関わらずともに学ぶことができる学習プログラムの企画・実践に努め、市町村のモデルとなる事業の開発に取り組んだ。

いま一つは、障害の有無にかかわらず意見交流をする熟議「みんなの思い イウベ・キクベ」、街歩きイベント（車椅子での街歩き）「アルクベ・イウベ・キクベ」を開催し、テーマに迫るための取組を実施。加えて、「あきたスマートカレッジ」では、県民の障害者の生涯学習に関する理解促進に向けた学習講座「障害のある方の学び～わたしたちのプレジャンプ（全4回）」を実施するとともに、生涯学習・社会教育関係者研修において、障害者の生涯学習に関する内容での研修を2回実施した。

その上で、これまでの取組の成果と今後の方向性を広く県民に伝えるための意識啓発リーフレット「障害のあるなしにかかわらず一緒に学べる場 つくってみた」（5,000部）を作成し、市町村等に配付した。また、秋田県教育研究発表会（総合教育センター）で研究成果を発表したほか、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターの社会教育情報番組「社研の窓」に当センターの実践が取り上げられ、令和5年度当初にWebサイトに掲載される予定。

さらには、3回目となる「あきたWith杯ボッチャ交流大会（R4.12）」を、当センター3階講堂に2つのコートを設置するかたちで開催し、12の団体が参加した。

☑ 5年次（令和5年度）

『「障害者の生涯学習」の推進とつながりづくり～連携・協働による学びの場を広げるために～』をテーマに、大学教授や障害者スポーツ関係者等による調査研究委員会を2回開催し、研究内容等について広く意見をいただくとともに、次のような取組を展開した。

2年目となる「オーダーメイド型社会教育主事派遣」では、市町の実態に合わせた協働スタイルでの取組を通し、市町に実践の仕組みを残すことを目標に事業運営に関するさまざまなノウハウを提供してきた。昨年度から継続する仙北市に北秋田市と八峰町を加えた3つの市町と協働し、学びの場を広げる実践に取り組

んだ。

仙北市は、仙北市中央公民館を核として市内の大曲支援学校せんぼく校、障害者支援施設「愛仙」との連携・協働により、障害の有無にかかわらず参加できる「せんぼく桜スクール」を定期的に開催し、スポーツや防災、和太鼓をテーマにした学びの機会を設けた。

北秋田市は、市教委生涯学習課が中心となり、生活支援センター「ささえ」や障害者支援施設どじょっこハウスとの連携・協働により、車椅子街歩きイベント「アルクベ・イウベ・キクベ in 銀座ストリート」や防災教室を開催し、ともに学べる機会を創出した。

八峰町では、町教委生涯学習課が中心となり、町内の障害者支援施設さくら園との連携・協働により防災講座を継続的に実施した。

オーダーメイド以外の取組としては、秋田きらり支援学校からの依頼を受けて青年学級の企画・運営に携わり、このことをきっかけに、きらり支援学校卒業生有志が当センターとのつながりをもったことにより、卒業生が企画する交流イベントへの参画が実現した。

また、大曲支援学校寄宿舎防災研修や比内支援学校寄宿舎職員研修、特別支援学校副校長・教頭研修等の防災研修の講師を依頼され、障害の有無にかかわらず身に付けておきたい防災スキルの普及・啓発に努めた。

さらに、秋田青少年・障害者問題調査研究所からの依頼で、遠隔講座（ICT機を活用した配信）の講師も務め、移動が困難な人たちに対する学習機会提供の験的な取組にも関わった。

他県からの依頼によって講師を務めたものとしては、岩手県教委主催の「人づくり、地域づくり関係職員等研修講座」と遠野市主催「心のバリアフリー推進研修会（街歩きイベント）～アルクベ・イウベ・キクベ in 遠野」がある。

あきたスマートカレッジでは、県民の障害者の生涯学習に関する理解促進に向けた学習機会として「障害者の生涯学習講座～学びのドアを開けよう～（全4回）」を実施するとともに、生涯学習・社会教育関係者研修においては、障害者の生涯学習に関する内容での研修を2回実施した。

その上で、これまでの取組の成果と今後の方向性を広く県民に伝えるための実践紹介リーフレット「障害のあるなしにかかわらず 笑顔で学べる場 つくってみた」（5,000部）を作成し、市町村等に配付した。また、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターの社会教育情報番組「社研の窓」に当センターの実践が取り上げられ、Webサイトに掲載されている。

さらに、4回目となる「あきたWith杯ボッチャ交流大会（R5.12）」を当センター3階講堂に3つのコートを設置するかたちで開催し、16の団体が参加した。

☑6年次（令和6年度）

『「障害者の生涯学習」の推進とつながりづくり～連携・協働による学びの場と新たな学び場・学びのジャンル開拓～』のテーマを掲げ、実践研究に取り組んだ。内容等について助言していただくため、学識経験者や障害福祉関係者等による調査研究委員会を開催し、次のような取組を展開した。

障害者の生涯学習について学んだり、障害のあるなしにかかわらず一緒に活動したりするためのスペースとして、生涯学習センター内に「ツドウベース」を整

備（中2階及び地下ホール）。誰もが集い楽しく学べる基地（ベース）として、のべ150を超える団体（2,000人超）に、障害者スポーツや創作活動等の学びの場として利用された。

障害のあるなしにかかわらず共に楽しく学ぶ場について、さまざまな立場の人たちが集まり、自由闊達な意見交流をする熟議「ツドウベ・イウベ・キクベ」を開催した。特別支援学校生徒・卒業生・教員、生涯学習奨励員、調査研究委員、非営利任意団体「あきたWith」のメンバー等が参加し、「こんな学び場があったら参加したい」「楽しい学び場にするために自分ができることは？」などのテーマで、学び場づくりへの思いを伝え、自分にできることを考えた。

「学びのジャンル開拓」では、モルックに焦点を当て、屋内で実施するための用具（材質や形状）やルール工夫等に取り組み、紙等の使用やパソコンの活用により、障害のあるなしにかかわらず、いろいろな場所で楽しめる方法を模索し実践を通して改良を重ねてきた。取組は、現在も継続中である。

3年目となる「オーダーメイド型社会教育主事派遣」は、これまで継続してきた仙北市、北秋田市、八峰町に加え、大仙市、三種町が加わり、3市2町での実施となった。以下、市町毎に特徴的な取組に絞って記載する。

仙北市では、仙北市中央公民館が主催し、大曲支援学校せんぼく校の青年学級「せんぼく桜スクール」と共催した防災体験教室を開催。過去3年間の積み重ねにより、市消防、地域消防団、地域婦人団体連絡協議会との連携や市建設業組合の参加などが実現し、講座の実施や体験ブースの運営、炊き出し実演等の充実し学びの場づくりが見られた。障害のあるなしに関わらず地域住民が共に活動することで、取組の輪は確実に広がりを見せている。

北秋田市では、障害のあるなしにかかわらず共に楽しむこと、様々な人との交流の機会や学びの場を創出することを目的とした「ニュースポーツ体験講座」を市教委生涯学習課が主催。市の障害者生活支援センターへの働きかけや市民ふれあいプラザにぎわいづくり委員（高校生）に加え、県外から秋田の大学に来て学んでいる学生への呼びかけ、広報での情報提供などによる周知に努めるとともに、会場に避難所生活の一部を体験できるスペース、防災グッズの製作体験コーナーを設けるなどの「場」の工夫もなされたことにより、多くの参加者が体験を通じた交流を楽しんだ。

八峰町では、町教委生涯学習課が中心となり、「障害者スポーツを体験しよう」という学びと交流の場が企画され、これまでもつながりを深めてきた障害者支援施設利用者に加え、生涯学習奨励員、社会教育施設職員、地元中学校生徒、広報で情報を得た一般町民など様々な人たちが交流する学びの機会が実現した。

大仙市では、公民館と特別支援学校青年学級とのつながりを「障害者の生涯学習」推進の柱の一つに据えることとし、状況を把握するための視察を実施した。また、市内ショッピングモールの「市民ギャラリー」に障害のある方の作品も展示し、広く市民に鑑賞してもらう機会を設定し、障害者理解に努めた。

三種町では、町内の障害者福祉施設との連携による学習機会の構築に向けた準備を進めてきた。そのために必要となる合理的配慮等について学ぶとともに、講座開設のノウハウ等についても学びを深め、今後につなげる基礎づくりに努めた。

オーダーメイド以外の取組としては、秋田大学教育文化学部附属特別支援学校天王みどり学園及び同校青年学級、大曲支援学校寄宿舎、能代市中央公民館、秋

田県聴力障害者協会、湯沢市の地域生活支援拠点、市民NPO等からの依頼を受けて、障害のあるなしにかかわらず学べる防災スキルに関する研修等を企画・実施した。

さらには、秋田きらり支援学校青年学級との共催事業の複数開催や秋田県立近代美術館の障害者の生涯学習関連事業への継続的な支援、他県（遠野市）からの依頼で非営利任意団体「あきたWith」と協働で企画・実施した車椅子の街歩き研修等、これまでに増して多様な主体との連携・協働による取組が拡充された。

当センター主管の県生涯学習・社会教育関係者研修では、秋田県生涯学習・社会教育研究大会のほか、市町村・公民館等職員専門研修や家庭教育支援指導者等研修において社会的包摂への理解と実践につなげる研修を実施した。また、あきたスマートカレッジでは、県民の障害者の生涯学習に関する理解促進とつながりづくりに向けた学習講座「障害者の生涯学習講座～学びを楽しもう～」を4回シリーズで実施した

5回目となった「あきたWith杯ボッチャ交流大会」は、16チーム81人が参加し3階講堂を会場に開催された。継続参加の障害者福祉施設、民間サークル、高校生等に加え、新たに障害者の生涯学習に取り組む市教委生涯学習課職員、ツドウベース利用団体、一般企業のチームが加わり、さまざまな立場の方々が参加し、交流を楽しんだ。

そして、これらの取組から見えてきた今後の方向性を広く県民に伝えるための実践紹介リーフレット「障害のあるなしにかかわらず みんなが集い、笑顔で学べる場 つくってみた」(5,000部)を作成し、市町村等に配付した。

☑7年次（令和7年度）

『「障害者の生涯学習」の推進とつながりづくり～連携・協働による学びの場づくりと新たな学びのジャンル開拓～』をテーマに、実践研究に取り組んだ。取組内容や留意事項等について専門的な視点から助言いただくため、障害福祉関係者や学識経験者等による調査研究委員会を組織し、2回の会議を開催した。

昨年度、生涯学習センター内に整備した『「障害者の生涯学習」のための活動スペース「ツドウベース」』は、誰もが集い楽しく学べる基地（ベース）として、のべ1,400人を超える方々から利用された。（のべ利用団体数は100を超えた）

連携・協働による学びの場づくりでは、一昨年度から誰もが楽しむことができるよう工夫を続けてきたモルックの体験交流会を開催し、ツドウベース利用者、特別支援学校生徒・卒業生、ツドウベース利用者、障害者団体関係者、調査研究委員、非営利活動団体「あきたWith」のメンバー等が、工夫された用具やコート等を使って楽しく交流を深めた。

「学びのジャンル開拓」については、聴覚障害に焦点を当てて研究を進めた。聴覚障害者協会とのつながりを生かし、ヘッドフォンを使用して周囲の音を遮断して街を歩いてみる体験を通して感じたことを共有する「アルクベ・イウベ・イウベ・キクベ～デフバージョン～」という参加型学習を実施し、障害のあるなしに関わらず相手の立場で考える大切さについて再認識する機会となった。また、コミュニケーションツールとしての手話の必要性にも気づかされ、センター職員がチーム内研修として手話を学ぶことにつながった。

取組を始めて4年目となる「オーダーメイド型社会教育主事派遣」は、仙北市、

北秋田市、大仙市、八峰町の3市1町で実施。以下に、取組について記載する。

仙北市では、中央公民館が主催し、大曲支援学校せんぼく校の青年学級「せんぼく桜スクール」との共催によるスポーツ体験教室、防災体験教室をそれぞれ開催。特に、スポーツ体験教室ではモルックを題材に、オーダーメイドによる伴走支援活用型の運営から、市単独での運営を目指した体制づくりに努めた。

北秋田市では、障害のあるなしにかかわらず共に楽しむこと、さまざまな人との交流の機会や学びの場を創出することを目的とした「やってみよう！ポッチャ&モルック」を市教委生涯学習課が主催。市の障害者生活支援センターへの働きかけや広報での情報発信等によって広く情報提供に努め、多くの参加者を得て体験交流が行われた。また、市単独での運営を目指し、ポッチャやモルックのコート設営等の工夫に努めた。

八峰町では、町教委生涯学習課が中心となり、学びと交流を目指して「親子防災体験教室」「ニュースポーツ体験講座」が企画され、これまでもつながりを深めてきた障害者支援施設利用者に加え、生涯学習奨励員、地元中学校の特別支援学級に在籍する生徒、社会教育施設職員、さらには町広報誌で情報を得た町民等幅広い町民の参加があり、さまざまな人たちが交流する学びの場が実現した。

大仙市では、障害者の生涯学習を推進するには関係職員が学びを深めることが不可欠であるとの認識から、同市教委が担当する秋田県社会教育主事研修会(兼)県南社会教育主事協議会第2回研修会において、障害者支援施設と連携して社会教育関係職員と施設利用者がともに学ぶ「ポッチャ体験」を実施した。

オーダーメイド以外の取組では、天王みどり学園、障害者の生涯学習コンソーシアム、みんなで創るオンライン生涯学習講座の学習機会に参画し、障害のあるなしにかかわらず学べる防災スキルに関する研修等を企画・実施した。また、東京2025デフリンピック応援イベント、秋田県精神障害者スポーツ競技会、秋田市身体障害者協会、秋田県通所施設協議会、秋田市ろうあ協会専門部が主催するモルック、ポッチャの体験会に、企画段階から実施まで参画した。秋田きらり支援学校青年学級と連携・協働し、学びとつどいの場「オンラインしゃべり場」「エンジョイミュージック」を実施した。

当センターが主管した県生涯学習・社会教育関係者研修においては、「秋田県生涯学習・社会教育研究大会」「市町村・公民館等職員専門研修」「家庭教育支援指導者等研修」で、社会的包摂の理解と実践につなげる内容の研修を実施した。

あきたスマートカレッジにおいては、県民の障害者の生涯学習に関する理解促進とつながりづくりに向けた学習講座「障害者の生涯学習講座～学びを楽しもう～」を4回シリーズで実施した。

6回目となった「あきたWith杯ポッチャ交流大会」は、16チーム77人が参加し、当センター3階講堂を会場に開催された。特別支援学校生徒、高校生、民間サークル、障害者関係団体、ツドウベース利用団体、一般企業等からの参加者は、競技のみならず、応援等を通じて交流を深めた。

年度末には、これらの取組から見えてきた今後の方向性を広く県民に伝えるための実践紹介リーフレット「障害のあるなしにかかわらず みんなで学べる場をつくってみたら 笑顔がつながり広まった」(5,000部)を作成し、市町村等に配付し、意識啓発に努めた。

□社会教育状況調査の実施

市町村の生涯学習・社会教育の現状を把握し、基礎資料とするための調査を令和元年度から当センターが担当しており、今年度も実施する。

□「家庭教育に関する調査」の分析とまとめ

平成18、24、令和元年度と継続実施してきた家庭教育の状況、保護者の意識・実態等に関する調査を昨年度実施し、令和7年3月に「グラフで見る秋田県の家庭教育（発行：秋田県教育委員会）」としてまとめた。

令和8年3月には、子どもの年齢、校種等による詳しい分析をし、家庭教育支援指導者等研修や県庁出前講座等に活用するために「家庭教育に関する調査」報告書【詳細版】を作成し、Webサイトに掲載した。

(2025実績及び調査結果等)

- 障害者の生涯学習に関する実践紹介リーフレット（A4判4ページ）について
タイトル「障害のあるなしにかかわらず
みんなで学べる場をつくってみたら 笑顔が広がりつながった」
 - ・作成部数 5,000部
 - ・主な配付先 市町村教育委員会、小・中・義教・高・特支学校、福祉関係事業所、文部科学省等、近隣県教育委員会等
- 令和7年度「社会教育状況調査」

県内の市町村の生涯学習・社会教育の現状を把握し、基礎資料とするための調査を7月に実施し、生涯学習課へ報告。結果は「施策の概要」に掲載。
- 「家庭教育に関する調査」

令和元年度に県内幼稚園・保育所及び認定こども園、小、中、高校の幼児・児童・生徒（抽出）の保護者に対し調査を実施し「グラフで見る秋田県の家庭教育」と題したダイジェスト版報告書を作成するとともに、翌令和2年度にその詳細についての分析・考察を加えた報告書を完成させ、当センターWebサイトで公開している。

令和6年度は、令和元年度調査と比較するため、同様の調査を実施するとともに「グラフで見る秋田県の家庭教育」を作成・配付し、Webサイトに公開した。

令和7年度には、その詳細なグラフや数値、考察等を示した「家庭教育に関する調査」報告書【詳細版】を作成し、当センターWebサイトに公開した。

(2) 多様な主体との連携・協働

□民間企業等との連携・協働

調査研究等に関する取組、各種研修等の企画・実施に際し、民間企業等とのコラボ

レーションにより、その内容の充実を図るとともに、取組のさらなる波及に努める。

□大学との連携・協働

各種研修等の企画・実施に当たっては、これまでの取組の成果を生かし、秋田大学、日本赤十字東北看護大学介護福祉短期大学部等との連携・協働を継続する。

また、秋田大学教育文化学部との連携・協働を通して、これからの社会教育人材の養成に寄与するとともに、当センターの調査研究及び研修等による学習成果の交流・還元機会とする。

□関係機関（団体）との連携・協働

国及び県機関、県立学校、市町村立学校等との連携・協働に努めるとともに、市町村教育委員会への伴走支援及び関係団体との協働による実践研究に取り組む。

(2025実績)

☑民間企業等との連携

○「あきたWith」（現在38社が加盟）との連携・協働により、第6回ボッチャ交流大会を令和7年12月7日（日）に開催。16チーム、77名がエントリーし、当センター3階講堂を会場に盛大に実施された。

☑大学との連携・協働

○東京大学史料編纂所の講師による学習機会の構築

東京大学史料編纂所の研究者が、様々な史料に基づく研究の成果を直接県民に伝える講座（あきたスマートカレッジ「東大史料編纂所協力講座」）を5回にわたりリモート開設した。

○日本赤十字秋田短期大学介護福祉学科とのつながり

市町村・公民館等職員専門研修、あきたスマートカレッジ「防災講座」（4回シリーズ）の講師として同大学の講師を招聘し、有意義な研修・講座が実現した。

○秋田大学教育文化学部とのつながり

「社会教育経営論Ⅱ」（後期15コマ）の授業内容に、当センターの取組を題材として組み入れることで、社会教育士及び将来の社会教育を担う人材育成に寄与することができた。

☑関係団体との連携・協働

○「秋田障害者の生涯学習推進コンソーシアム」との連携

同団体との協働による「障害者の生涯学習講座」のうち防災講座（オンライン）を当センターが担当し、これまで実践してきたノウハウを活かして実施した。

○「秋田県聴力障害者協会」との連携・協働

当センター職員が参加した手話講座でのつながりをきっかけに、同協会が主催する教育フォーラムでのモルック体験会、デフリンピック応援イベントでのブース出展と、連携・協働による学習機会の構築が実現した。

(3) 運営委員会の開催

当センターの適正な運営と円滑な事業の推進を図るため、次のような委員を選任し、年2回の委員会を開催する。

○任期 : 2年 (R6.4.1~R8.3.31) ※ただし、公募委員はR8.4.1~R10.3.31

○委員 : 8名

- ・生涯学習実践者
- ・生涯学習センター関係者及び利用者等の代表
- ・市町村教育委員会等の代表
- ・生涯学習・社会教育関係団体の代表
- ・学識経験者
- ・マスコミ関係者
- ・公募委員

(2025実績)

第1回運営委員会

- 1 日時 令和7年7月16日(水) 午前10時から11時30分まで
- 2 場所 生涯学習センター 視聴覚室
- 3 出席者 運営委員6名 生涯学習センター職員11名 生涯学習課3名
- 4 案件
(1) 前年度の事業報告と今年度の主な事業計画について
(2) その他
- 5 その他

※ 議事録はセンターWebサイトに掲載

第2回運営委員会

- 1 日時 令和8年1月29日(木) 午前10時30分から正午まで
- 2 場所 生涯学習センター 視聴覚室
- 3 出席者 運営委員8名 生涯学習センター職員11名 生涯学習課2名
- 4 案件
(1) 今年度事業の実施状況について
(2) 来年度の主な事業計画について
(3) その他

※ 議事録はセンターWebサイトに掲載

2 研修・人材育成

「持続可能な地域づくり」を目指す研修・支援の推進

(1) 研修事業の推進

地域課題や現代的課題の解決に迫る生涯学習・社会教育関係者研修の充実

- 年間研修テーマ「地域のつながりづくりを支える社会教育の展開
～共生社会の実現を目指し、学び続ける人材の育成～」

【生涯学習・社会教育関係者研修】

- 新任職員等基礎研修

【社会教育行政の役割について】

- 講話 「社会の要請」にこたえる社会教育を目指して
- 講話 「障害者の生涯学習」はじめての一步

5月7日（木）～5月28日（木） ※YouTube限定配信

- 新任地域学校協働活動推進員・新任地域連携担当教職員等研修

【地域と学校が連携・協働するということ】

- 講話 地域と学校の連携・協働に向けて
- 演習 連携・協働を進めるための手法
- 参加者交流

5月13日（水） 会場：生涯学習センター ※オンライン可

- 第1回市町村・公民館等職員専門研修

【学びのユニバーサルデザイン～みんなでスポーツを楽しむために】

- 講話 障害のあるなしにかかわらず誰もが楽しむために必要なこと
- 講座企画体験 自分で設営したコートでスポーツを楽しもう

7月22日（水） 会場：生涯学習センター

- 第2回市町村・公民館等職員専門研修

【災害からの復旧・復興を考える】

- 講話・演習 災害からの復旧・復興と官民の連携

8月26日（水） 会場：生涯学習センター

- 第3回市町村・公民館等職員専門研修

【障害理解に向けて～障害者の生涯学習支援を考える～】

- 講話 聴覚障害者の視点から見た社会的障壁について
- ワークショップ アルクベ・イウベ・キクベ in 山王 ～デフバージョン～

9月30日（水） 会場：生涯学習センター及びその周辺

【家庭教育支援指導者等研修】

○年間研修テーマ「保護者と子どもをサポートするための実践力を身につけよう」

□第1回 家庭教育支援チームができることを考えよう

- 講 話 家庭教育に関する調査の詳細分析から見えること
- 協 議 保護者や子どもをサポートするために身につけたい力
- 講話・演習 学校現場を通じた家庭教育支援について
5月21日（木） 会場：生涯学習センター

□第2回 保護者と子どものより良いかかわり方や支援のあり方を学ぼう

- 講話・演習 ペアレントトレーニングで学ぶ 親と子の幸せなかかわり
～子どもの自信を育む、大人のステップアップ～
7月16日（木） 会場：生涯学習センター

□第3回 様々な困り感を抱える子どもや保護者への支援について学ぼう

- 講話・演習 ひきこもりの実態と支援～藤里方式～
～誰一人取り残さない地域づくりへの挑戦～
- 講 話 子どものSOSの受け方について
～見逃さないで！小さなサインと寄り添い方～
- 講話・演習 家庭教育支援関係者が専門機関へつなぐ際に必要なこと
9月10日（木） 会場：生涯学習センター

□第4回 現代的課題に対応した家庭教育支援について考えよう

- 講話・演習 画面の中身よりも目を向けるべきこと
～ネット利用をめぐる大人と子どもの信頼関係のつくり方～
- 協議・演習 保護者と子どもをサポートするために、自分ができること
11月19日（木） 会場：生涯学習センター

【秋田県生涯学習・社会教育研究大会】

テーマ 地域のつながりづくりを支える社会教育の展開
～共生社会の実現を目指し、学び続ける人材の育成～

- 内容 / 講演・実践研究発表・協議
11月6日（金） 会場：生涯学習センター

(2025実績)

【生涯学習・社会教育関係職員研修】(のべ参加者数 202人)

- ☑ 新任職員等基礎研修 5月8日(木)から5月29日(木) 64人視聴
テーマ「社会教育行政の役割について」 ※YouTube限定公開
・前半『「社会の要請」にこたえる社会教育』
・後半『「障害者の生涯学習」はじめの一步』
- ☑ 第1回地域学校協働活動推進員・地域連携担当教職員等研修会 68人参加
6月18日(水)
テーマ「学校が地域と協働するとは？」・講義と「熟議」体験
- ☑ 第1回市町村・公民館等職員専門研修 7月23日(水) 35人参加
テーマ「学びのユニバーサルデザイン～みんなでスポーツを楽しもう～」
- ☑ 第2回市町村・公民館等職員専門研修 8月27日(水) 29人参加
テーマ「防災を楽しく学ぼう」
- ☑ 第3回市町村・公民館等職員専門研修 10月1日(水) 6人参加
テーマ「障害者理解に向けて～障害者の生涯学習支援を考える～」

【家庭教育支援指導者等研修】(のべ参加者数 130人)

- ☑ 第1回 5月29日(木) 32人参加
テーマ『地域のつながりで家庭教育を支えよう』
講話「家庭教育に関する調査(令和6年実施)から見えること」
講話・演習「保護者をサポートするために地域でできること」
講話・演習「保護者と子どもの居場所づくり～『ままのいえ』での取組～」
- ☑ 第2回 7月10日(木) 35人参加
テーマ『保護者と子どもをサポートするために支援チームができることを考えよう』
講話「保護者の声を聴くために大切なこと」
実践発表①「地域における子どもたちの交流の場の創出～何もしない合宿～」
実践発表②「地域に顔の見える家庭教育支援をめざして」
意見交流「自分たちの立場でどんなサポートができるか～実践発表を参考に～」
- ☑ 第3回 9月25日(木) 38人参加
テーマ『家庭での困り感や様々な課題に対応した家庭教育支援を進めよう』
講話・演習「子どもたちのネットの楽しみ方と保護者の関わり方を学ぼう」
講話・演習「児童生徒のニーズに応じた通級指導教室における取組」

☑第4回 11月20日（木） 25人参加
テーマ『地域のつながりで家庭教育支援の輪を広げよう』
講話・演習「子どもたちの輝く笑顔のために～歌を添えて～」
協議「地域による支援の輪を広げるためにできること」

【秋田県生涯学習・社会教育研究大会】 ☑11月7日（金） 84人参加

テーマ「地域のつながりづくりを支える社会教育の在り方
～共生社会の実現を目指し、学び続ける人材の育成～」

講演 『新しい「学びの場」としての社会教育施設等の在り方』
岩手大学 名誉教授 新妻 二男 氏

実践研究発表①及び提言「地域のつながりづくりのために」
『「熟議」の取り組みと地域の学びを支える人材の育成
～「協働」を創り出す「熟議」～』
秋田県生涯学習センター 副主幹（兼）チームリーダー 柏木 睦

実践研究発表②
『秋田県聴力障害者協会と生涯学習センターとの協働による
学びの場の創出』
秋田県生涯学習センター 社会教育主事 和泉 洋介

（2）市町村等の課題解決に向けた取組への支援

市町村、学校等の課題解決に向け、依頼のあった市町村等にセンター職員が出向き、市町村等の職員と協働・研究して課題解決に取り組む。

□「地域と学校の連携・協働体制充実事業」にかかるオーダーメイド型社会教育主事派遣の拡充

□「地域の学びを支えるプラットフォーム構築事業」にかかるオーダーメイド型社会教育主事派遣の拡充

○事業の枠

- ・生涯学習課所管「地域と学校の連携・協働体制充実事業」
(予算内訳：職員旅費、通信・運搬費、消耗品費)
- ・生涯学習課所管「地域の学びを支えるプラットフォーム構築事業」

(予算内訳 : 職員旅費、通信・運搬費、消耗品費)

(2025実績)

※ ()内は継続年数

☑ 「学校・家庭・地域の連携・協働に関する取組」 エントリー市及び学校

大仙市(4)、横手市(2)、にかほ市(1) 大館桂桜高校(2)

3市と1県立学校がエントリーし、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動の円滑な推進、導入準備、関係者研修の在り方等を主な課題とし、協議や研修、「熟議」等の開催、市・学校が主催する研修会での講師を務めるなど、関係職員や教員、地域学校協働活動推進員等への学習機会の提供等に努め、各地域・学校の実情に応じた課題解決の一助になった。

☑ 「障害者の生涯学習支援に関する取組」 エントリー市町

仙北市(4)、北秋田市(3)、八峰町(3)、大仙市(2)

障害者の生涯学習支援の視点で各市町生涯学習課及び公民館等が主催する事業等に企画段階から関わるとともに、域内特別支援学校等との橋渡し役を担ったり、障害者支援施設、特別支援学校、県社会教育主事連絡協議会との連携・協働による事業等に講師及びスタッフとして参画した。

(3) 障害者の生涯学習に取り組む生涯学習団体への支援

「障害者の生涯学習」の理念に則り、共生社会の実現に寄与することを目的に学習活動を展開する団体及び個人に対し、活動の場としてツドウベースを提供する。

対象となる活動としては「障害者の生涯学習」支援を内容とするもの、「障害者の生涯学習」について学ぶことを目的としたもののほか、障害当事者・介助者の参加を積極的に受け入れる工夫のあるものが相当する。

※ 生涯学習ボランティア団体活動に関する支援は継続しているが、県民に学習機会を提供することを目的とした生涯学習団体への支援、令和5年度末をもって終了している。

(2025実績)

ツドウベースの利用実績

☑利用団体数	20団体
☑のべ利用回数	125回
☑のべ利用人数	1,482人

【内訳】

○スポーツスペース（中2階）

・利用団体数	17団体
・のべ利用回数	65回
・のべ利用人数	731人

○地下スペース

・利用団体数	4団体
・のべ利用回数	60回
・のべ利用人数	751人

生涯学習ボランティア団体活動支援の実績（95人）の内訳

☑生涯学習ボランティアグループ「ヤッホーの会」	12回	103人
☑生涯学習ボランティアコーディネーター「のぞみ」	9回	5人

3 学習活動・情報発信

県民の生涯学習機会と学習情報発信の充実

(1) 「障害者の生涯学習」のための活動スペースの活用

障害のあるなしにかかわらず集い、学ぶことができる場「ツドウベース」を生涯学習センター内に設置し、より多くの団体等の利用を促進する。

スポーツスペース（中2階）

・ ボッチャ ・ バドミントン ・ 卓球バレー ・ モルック 等

地下スペース

・ ワークショップ ・ 研修 等

※ これまでの障害者スポーツスペースの活用等

令和元年度に設置し、翌2年5月にコートを整備したこのスペースは、一般利用（予約制）のために開放し、障害者スポーツ（ボッチャ、卓球バレー、バドミントン）の体験を通して、障害者の生涯学習に関する理解の促進に努めてきた。

また、令和3年度より「あきたセカンドスクール推進事業」の一環で、「障害者スポーツを体験しよう！（ボッチャ・卓球バレー・バドミントン）」というプログラムを設けており、引き続き小・中・高校、特別支援学校の「総合的な学習の時間（探究の時間）」、道徳、体育、家庭科、福祉等の授業での利用に提供する。

(2025実績)

<input checked="" type="checkbox"/> スポーツスペースの利用実績	65件	731人
<input checked="" type="checkbox"/> 地下スペースの利用実績	60件	751人
<input checked="" type="checkbox"/> 「セカンドスクールの利用」の実績	2件	31人

(2) 県民の生涯学習機会の充実

地域課題や現代的課題に迫るあきたスマートカレッジの充実

□カレッジ講座の実施

【無料講座】

□地域づくり分野

- A 地域の取組学び講座～挑戦と新たな価値の創出～（4回）

5/16, 10/31, 11/7, 11/21

- B 熟議ファシリテーター講座～「熟議」をつくろう！～（4回）

6/27, 7/18, 8/8, 9/5

□現代的取組分野

- C 障害者の生涯学習講座～みんなで学ぼう、みんなで楽しもう～（5回）

5/30, 6/20, 7/4, 10/3, 11/28

- D 防災講座～自助力と共助力を高める～（5回）

6/6, 7/11, 8/22, 9/26, 10/17

【有料講座】 ※受講料は1講座につき440円

□教養分野

- E 東大史料編纂所協力講座 ～史料から読み直す江戸～（4回）

8/29, 9/12, 9/26, 10/10

- F 絵本で広がる新たな教養講座 ～大人にこそ絵本を 大人が楽しむ絵本への誘い～

（2回）

5/23, 11/14

□単位認定

生涯学習手帳を希望する県民に配付するが、所定の手帳以外にも学習記録がわかるものがあれば、それによって単位を認める。

所定の修得単位数に達した学習者のうち、希望者には次の称号を授与し、表彰する。

なお、令和3年度より生涯学習手帳の増刷は行わず、Webサイトからのダウンロードにより県民が同様のシートを取得できるようにした。

50単位修得	わか杉・マナビスト（児童・生徒に限る）	6人
100単位修得	ブロンズ・マナビスト	299人
300単位修得	シルバー・マナビスト	114人
500単位修得	ゴールド・マナビスト	79人
1000単位修得	プラチナ・マナビスト（論文必要）	10人
2000単位修得	プラチナ・マナビスト	0人

※ 令和8年3月31日現在のべ人数

(2025実績)

あきたスマートカレッジ参加者総数（381人）の内訳

【無料講座】

[地域づくり分野]

☑ A 地域の取組学び講座（4回）

45人参加

☑ B 熟議ファシリテーター講座（4回）

34人参加

[現代的取組分野]

☑ C 障害者の生涯学習講座（5回）

57人参加

☑ D 防災講座（4回）

64人参加

【有料講座】

[教養分野]

☑ E 東大史料編纂所協力講座（5回）

120人参加

☑ F 文学講座（3回）

61人参加

(3) 学習活動等の情報発信の充実

生涯学習情報紙及び生涯学習支援システムによる情報発信

○生涯学習情報紙の発行

□「生涯学習センターだより」の発行（3回）

A4判 2ページ

(2025実績) 8, 11, 1月号 計3,600部発行

○秋田県生涯学習支援システム「まなびサポート秋田」の掲載情報の充実

□生涯学習講座等の掲載

・講座・教室、講演会、催物・イベント

□人材バンクの登録等

・講師、指導者情報 ・団体グループ情報
・ボランティア個人情報 ・ボランティアグループ情報

※行動人情報について → 令和2年度よりアーカイブとして公開

□生涯学習支援システム活用のための市町村職員等への研修等

・市町村職員等研修会の実施（2回）

(2025実績) 2回 3市町等 3人

・出前講座の実施

(2025実績) 0件

・市町村職員による登録（入力）

(2025実績) 4市町 1,307件

※ 秋田市、横手市、仙北市、能代市

(2025実績)

生涯学習講座登録件数 1,307件（前年度比 734件減）

人材バンク登録状況 ※ [] 内の数字は令和7年度登録件数

総数 4,230件 [3]

(内訳) 講師 757件 [3]

団体グループ 3,268件 [0]

ボランティア個人 166件 [0]

ボランティア団体 39件 [0]

行動人情報

紹介人数 64,975人 ※ 令和2年度からアーカイブ化

講座情報へのアクセス状況

131,548件（月平均 10,962件）

(4) 展示スペースの利用促進

学習の成果を紹介することで、県民の生涯学習の振興に資するため当センターの1階エントランスホールや地下ホールを展示場所として個人・団体に提供する。

□展示計画 (予定)

- 6月 マーブルアート教室生徒作品展
- 7月 柳誌表紙絵展
- 9月 栗田支援学校 地域学校展
- 10月 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校
作業学習製品・作品展「ギャラリーわかほと」
- 11月 秋田市民サービスセンター 合同作品展
- 1月 秋田県認定リサイクル製品展示

(2025実績)

総観覧者数 (12,998人) の内訳

<input checked="" type="checkbox"/> 和紙人形 (華姫) テーブルウェア	1,148人
<input checked="" type="checkbox"/> 日本の笹切りアート展	1,568人
<input checked="" type="checkbox"/> パステル和アート展	1,725人
<input checked="" type="checkbox"/> 野口檀「つぶやきの詩」	1,998人
<input checked="" type="checkbox"/> 秋田県立栗田支援学校「地域学校展」	995人
<input checked="" type="checkbox"/> 光と色彩のハーモニー展	1,742人
<input checked="" type="checkbox"/> 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 作業学習製品・作品展「ギャラリーわかほと」	1,519人
<input checked="" type="checkbox"/> 秋田市市民サービスセンター合同作品展	1,833人
<input checked="" type="checkbox"/> 秋田県認定リサイクル製品展示PR事業	470人

(5) 学習相談の充実

□「ブルーの窓口」での相談業務

学習相談員 (2名交代制) による相談受付 (すべての開館日で実施)
生涯学習ボランティアによる原則週1回の相談も併せて実施

(6) 県庁出前講座の実施

□3講座を担当する。

- No.169 家庭におけるメディアとの上手なつきあい方
- No.177 生涯学習のすすめ
- No.178 生涯学習支援システム活用入門

(2025実績)

県庁出前講座参加者数

<input checked="" type="checkbox"/> No.168	インターネットの健全利用について	0回	0人
<input checked="" type="checkbox"/> No.178	生涯学習のすすめ	0回	0人
<input checked="" type="checkbox"/> No.179	生涯学習支援システム活用入門	0回	0人

(7) 視聴覚教育の充実

自作視聴覚教材コンクール

学習者の実態に応じた教材や地域に根ざした学習のための教材など、学びの多様化に対応した視聴覚教材の自作と活用を推進し、視聴覚教育の充実をはかることを目的に開催する。

最優秀賞受賞作品は、次年度の全国自作視聴覚教材コンクールに推薦する。

令和8年度 審査・結果発表

令和9年2月18日(木)

(2025実績) 応募作品数8点 (最優秀賞1点・優秀賞2点)

視聴覚教材等の貸出

自作視聴覚教材交流発表会及びコンクールの入賞作品や学習教材などのDVD、VHS教材を貸し出す。

(2025実績) 貸し出し実績 0点

(8) 施設利用の促進

利用者の安全と利便性向上を目指した施設の提供

利用実績 (2025実績)

利用人数	57,433人	(2024実績)	62,634人
開館日数	307日	(2024実績)	307日
平均人数/日	187人	(2024実績)	204人

令和7年度 センター利用者数

利用種別 月	事業			貸館					利用人数総計
	主催事業等	ホール利用等	小計	生涯学習に関する事業を行う団体			その他の団体	小計	
				教育団体	行政団体	その他			
4	2,007	36	2,043	420	0	770	1,023	2,213	4,256
5	2,399	36	2,435	716	0	709	1,068	2,493	4,928
6	2,291	87	2,378	572	0	860	983	2,415	4,793
7	2,916	59	2,975	608	0	1,129	1,239	2,976	5,951
8	2,381	59	2,440	454	42	1,130	924	2,550	4,990
9	2,551	54	2,605	450	0	1,076	1,106	2,632	5,237
10	2,793	40	2,833	559	0	900	1,343	2,802	5,635
11	3,350	72	3,422	692	0	1,315	1,640	3,647	7,069
12	1,839	51	1,890	307	0	849	784	1,940	3,830
1	1,577	42	1,619	297	0	601	822	1,720	3,339
2	2,037	91	2,128	81	10	586	1,427	2,104	4,232
3	1,534	54	1,588	146	0	484	955	1,585	3,173
計	27,675	681	28,356	5,302	52	10,409	13,314	29,077	57,433